

あしたば通信

No.7

発行日
令和5年
(2023年)

8月1日

発行：特定非営利活動法人
タンポポ福祉会
高砂市曾根町 2835 番 2
TEL. 079-448-8393

HP アドレス <https://www.tanpopofukushikai.org>

あしたば家族会から

今回は高砂市議会・精神保健研究会（仮称）の設立についてお話しします。精神保健に関する研究会は県議会、神戸市議会、姫路市議会、明石市議会、加西市議会ではすでに設立しておりますが、高砂市議会においても、精神福祉の現状を少しでも理解改善していくために、本年、5月頃より高砂市議会・精神保健研究会（仮称）の設立を、兵家連と共に話を進めています。研究会が設立されれば、将来的に、精神障がい者福祉は大きく前進するものと思われます。（あしたば家族会会長 寺延順市）

施設長から

梅雨明けて息つく間もなく日増しに夏らしくなるこの頃、お元気でお過ごしでしょうか。暑中お見舞い申し上げます。暑いなく暑いなくと思いつつながら過ごしている中でふと思つたことが「昔の人はどうやって暑さを凌いできたんやろう」ということ

です。

エアコンなどの冷房機器がなかった時代、風鈴の音に涼を感じるのは日本文化ならではの感覚でしょう。エアコンは体感温度しか下げませんが、昔は風鈴、簾、打ち水、そうめん、い草の香り等、五感から「涼」を感じることによって暑さ対策をされてきました。

時と共に文化も変わっていきませんが、暑さにイライラせず「涼を感じる心」を楽しめればと思います。



涼を感じさせる風鈴

播磨の城跡を歩こう

我々の住むこの兵庫の地は戦国時代、当時は政局の中心であつ

た京都、大阪と西国の間位置するという地理的重要性から多くの城が築城されました。そのため、ここ播磨地方にも一般にはあまり知られていないものの趣のある城跡がいくつも残っています。

あしたばの家から車で20分ほどの加古川市志方町にある小高い山に中道子山城という城跡が残っています。山の頂上からは東播磨地方が一望でき、遠くは淡路島まで見渡せます。ここは戦国期にこの播磨地方を治めていた赤松氏の居城で、織田信

長の命を受けた羽柴秀吉の播磨攻略の際に落城するまで約150年もの間、赤松軍の軍事拠点としての役目を担ってきました。

この城を攻略した秀吉は後に天下人となるわけですから、この中道子山城を巡る攻防戦が単なる局地戦の域を超えた運命性を感じずにはられません。

城跡は現代という廃墟のようなものですが、今ではかすかに往時の遺構が残るその地を歩くと、秀吉の栄華を称えるドラマ等ではあまり描かれない敗れ去

った者たちの声なき声が聞こえてくるような気にさせられます。

山城は春夏秋冬、季節によつて異なった表情を我々に見せてくれます。また、山城歩きは「歴史を学ぶ」、「自然を味わう」、「運動を楽しむ」の3つのメリットを一度に堪能できるまたとない機会です。ぜひチャンスがあれば地元の山城に足を向けてみてはいかがでしょうか。



山頂からの展望



中道子山城の本丸跡